

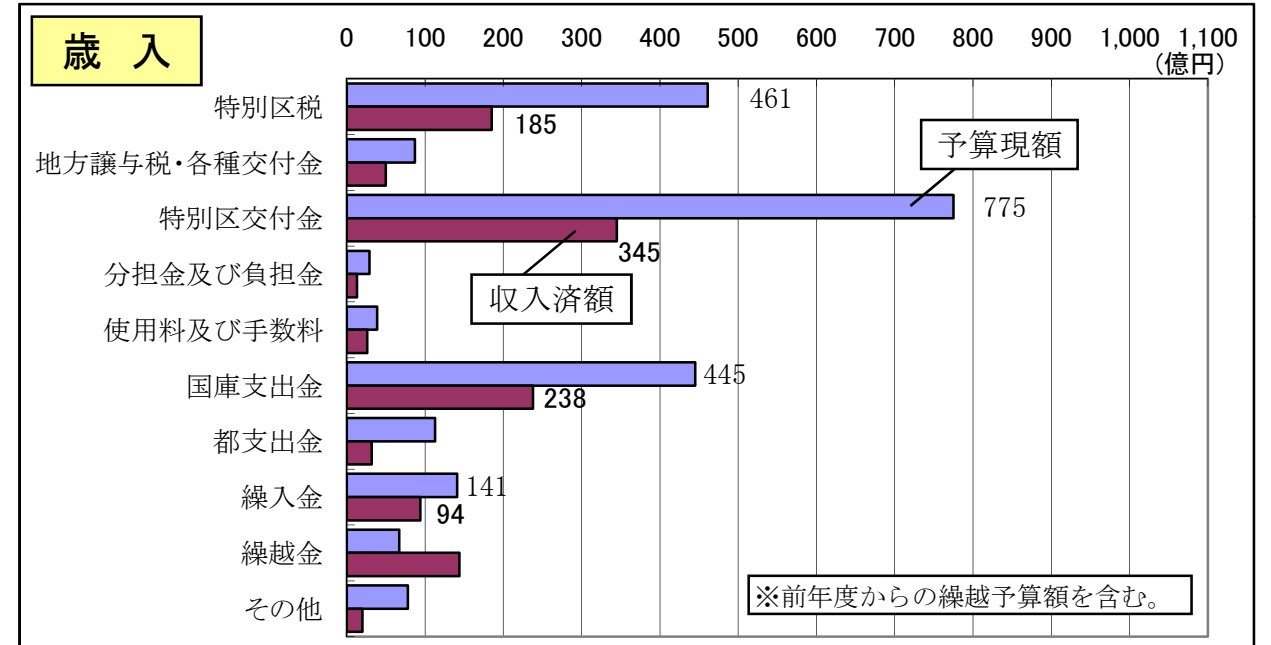
財政状況の公表（24年度上半期）概要

※各計数は、原則として表示単位未満四捨五入のため、合計等に一致しないことがあります。

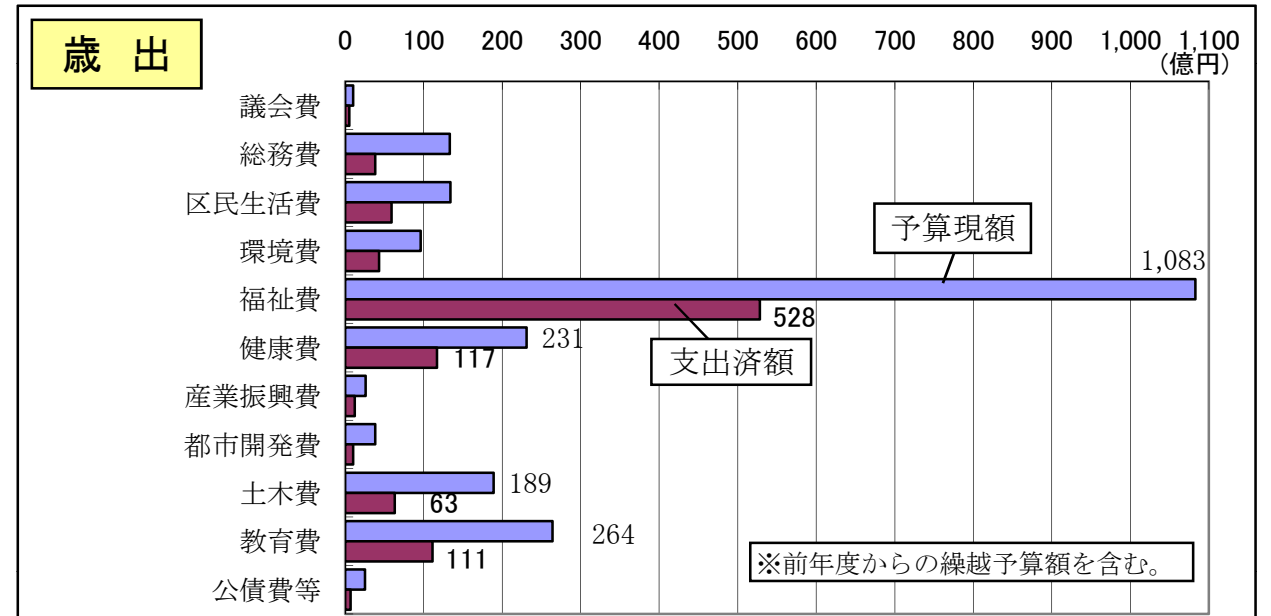
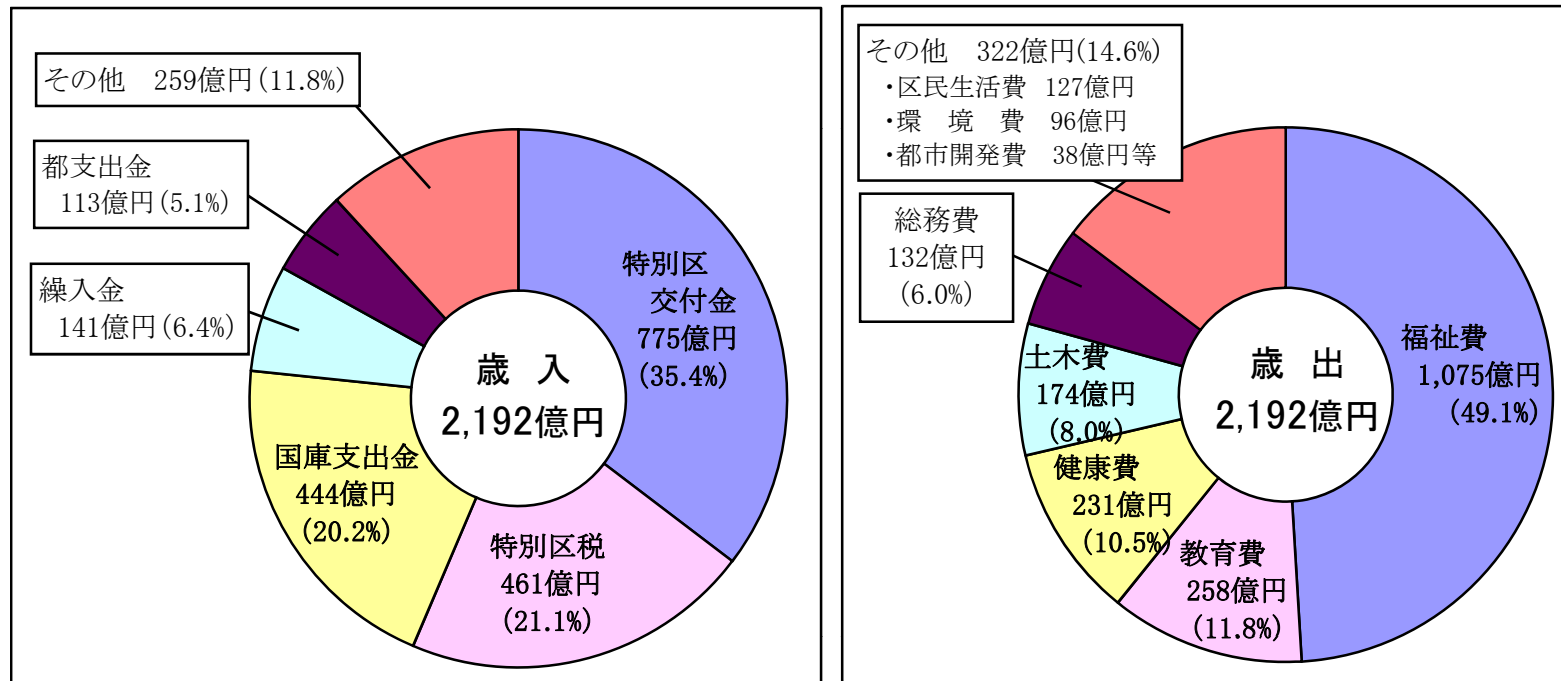
① 24年度予算のあらまし 一般会計「1号補正」の概要

補正額	2億5,260万1千円		
＜歳入＞	＜歳出＞		
◇繰越金	1億8,845万7千円	◇定期予防接種費（日本脳炎勧奨拡大）	1億7,329万1千円
◇都支出金	4,688万円	◇区政案内関係費（広報資料電子記録化）	4,062万5千円
◇諸収入	1,600万円	◇心身障害者施設整備費（耐震補強工事費）	2,985万5千円
◇寄付金	126万4千円	◇社会復帰指導費	656万5千円
		（精神障害者施設開設及びグループホーム開設準備助成）	
		◇消防団補助費	100万円
		（消防少年団の消防防災資器材購入）	

② 24年度予算の執行状況 一般会計（平成24年9月30日現在）

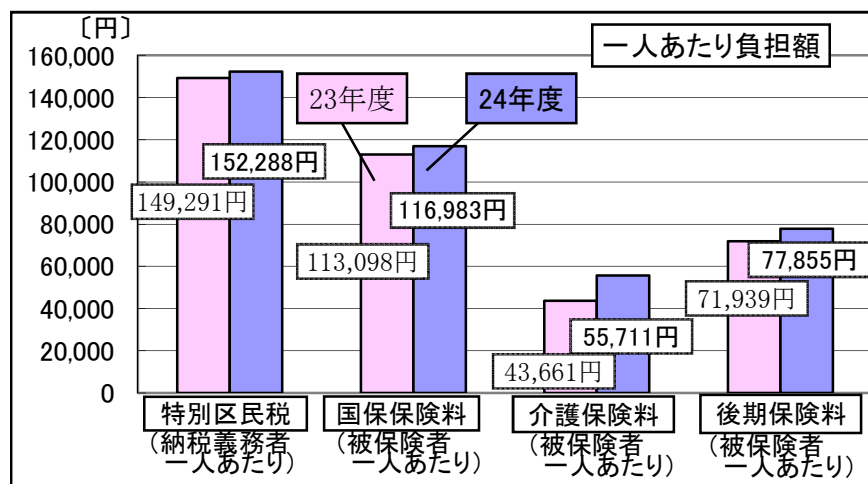


補正後の一般会計予算の構成

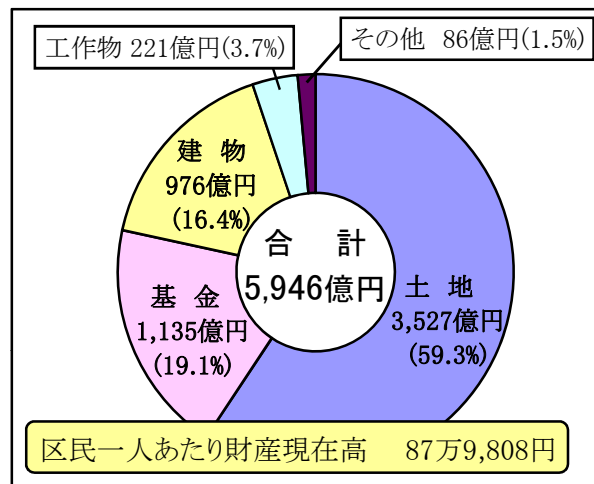


江戸川区の人口（住民基本台帳人口+外国人登録人口） 675,798人（平成24年9月30日現在）

③ 区民の負担概況（平成24年9月30日現在）

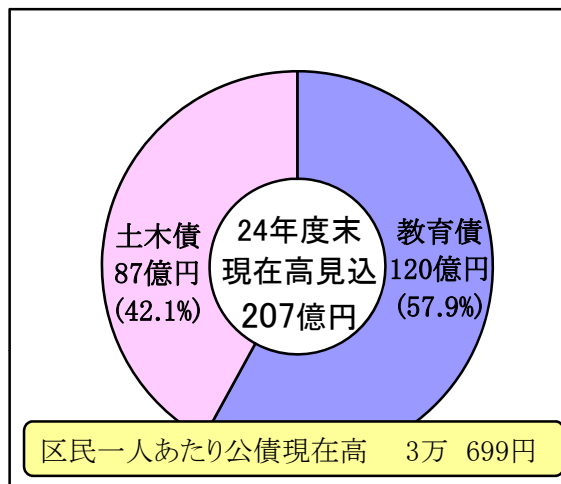


④ 財産の現在高（平成24年9月30日現在）



基金とは…
 積立基金と運用基金の2種類があります。左の基金は、この2つの合計です。
 積立基金は、家計でいうと貯金です。災害発生時や老朽化した施設の改築等への備えで、9月末現在高は935億円です。
 運用基金は、一定額の基金を土地取得のために運用するもので、200億円あります。

⑤ 公債の現在高（平成24年9月30日現在見込）



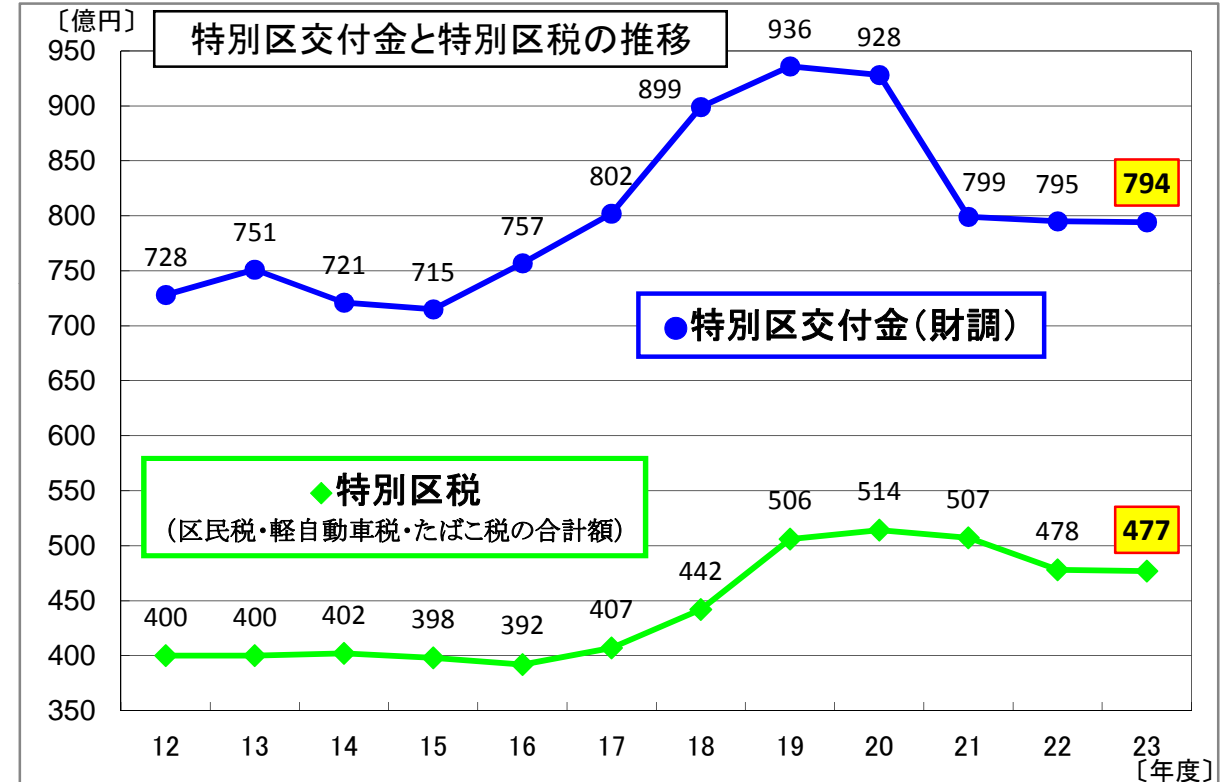
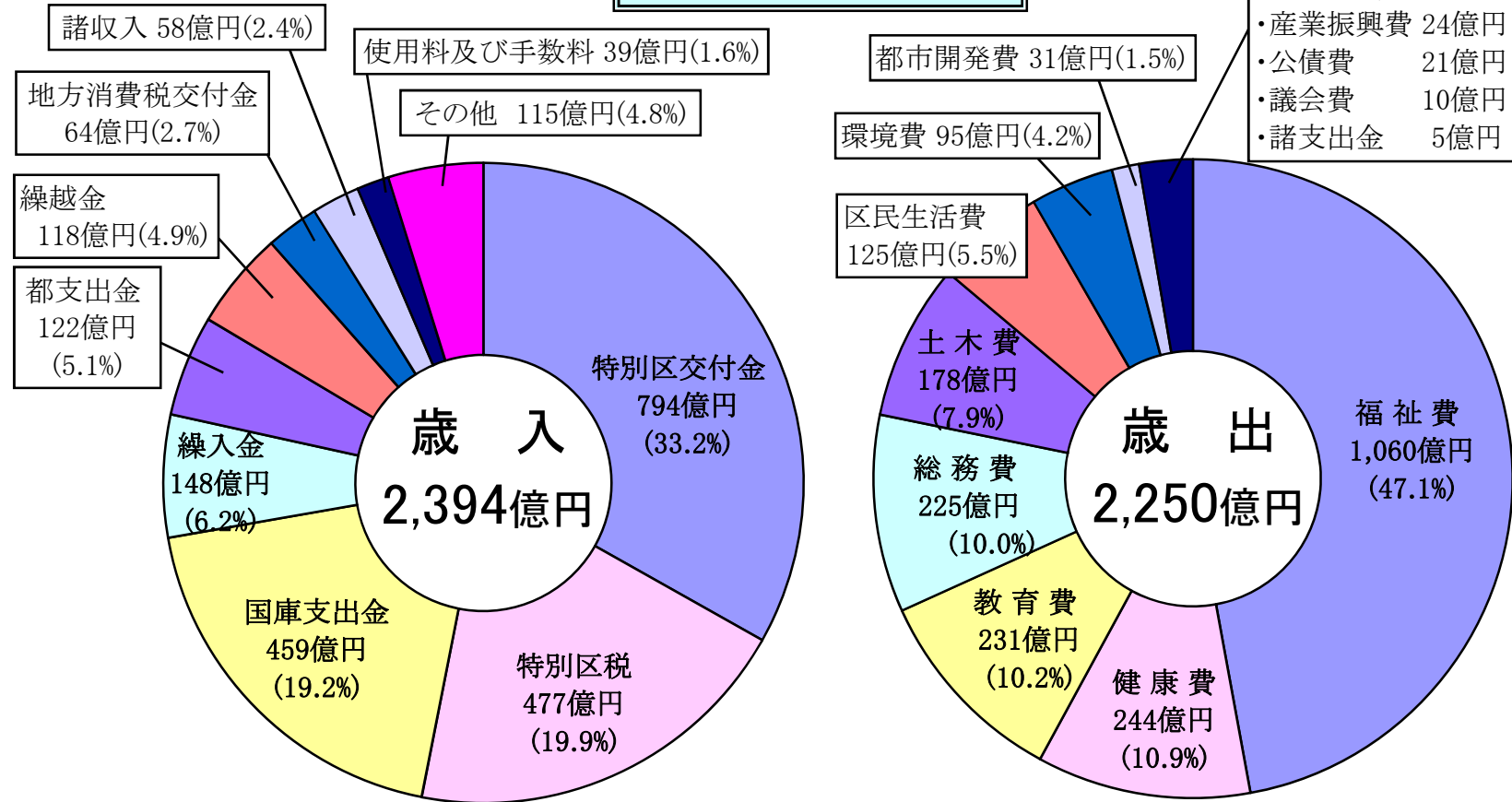
公債（区債）とは…
 家計でいうと住宅ローンなどの借金です。
 道路整備や学校の大規模改修など、いくつかの世代にわたって利用することのできる施設について、将来の区民の方々にもその費用の一部を負担していただくため、公債（区債）を借入れ、負担の公平を図っています。

平成23年度 決算の概要

※各計数は、原則として表示単位未満四捨五入のため、合計等に一致しないことがあります。

江戸川区の人口(住民基本台帳人口+外国人登録人口)
677,633人(平成24年3月31日現在) <東京23区中4番目>

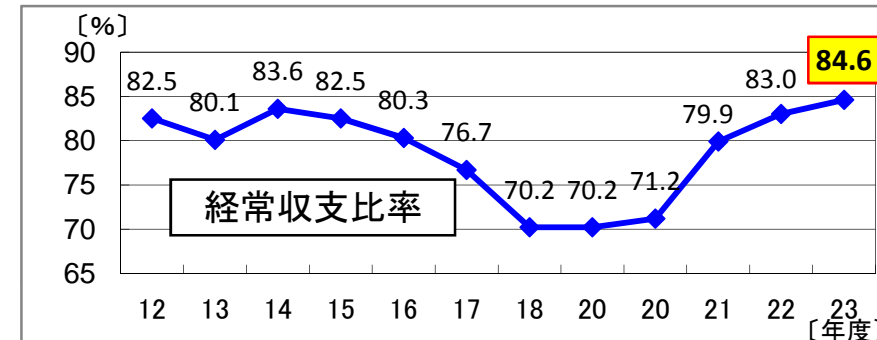
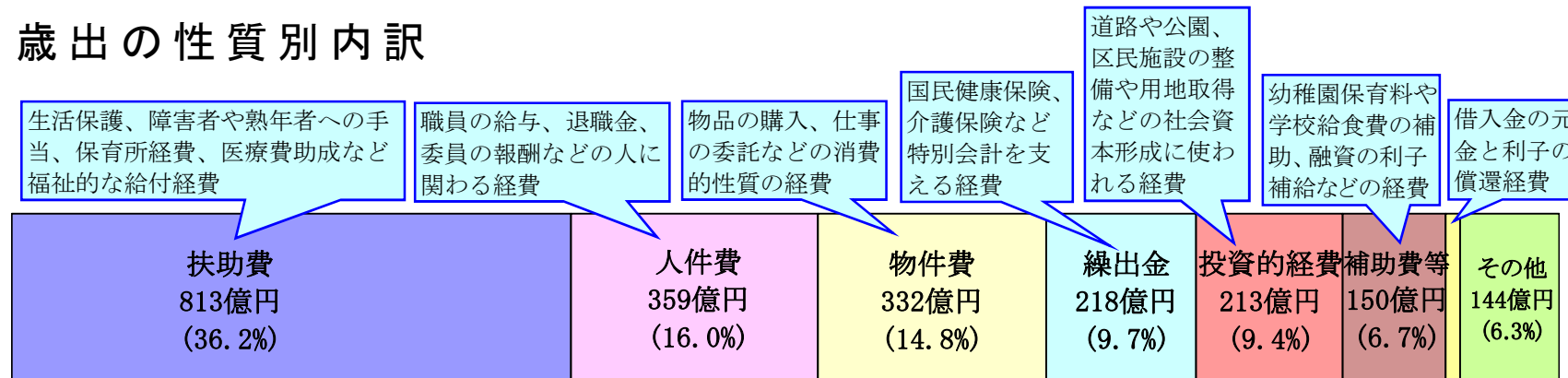
一般会計



平成19年度は、税率フラット化、定率減税全廃等により特別区税は大幅な増収となりました。しかし、この増額とはほぼ同規模の国・都補助金が削減されているため、区の収入総額が増えたわけではありません。また、特別区交付金(財調)は、都と区の配分率が52%から55%になり、過去最大の収入額になりました。

平成23年度は、景気低迷等により特別区交付金(財調)が回復せず、特別区税も所得の減少等により減収となっています。

歳出の性質別内訳



経常収支比率

財政構造の弾力性を計る指標で、適正水準は70%~80%です。

23年度は、前年度から1.6ポイント悪化し、過去2番目に高い数値となりました。

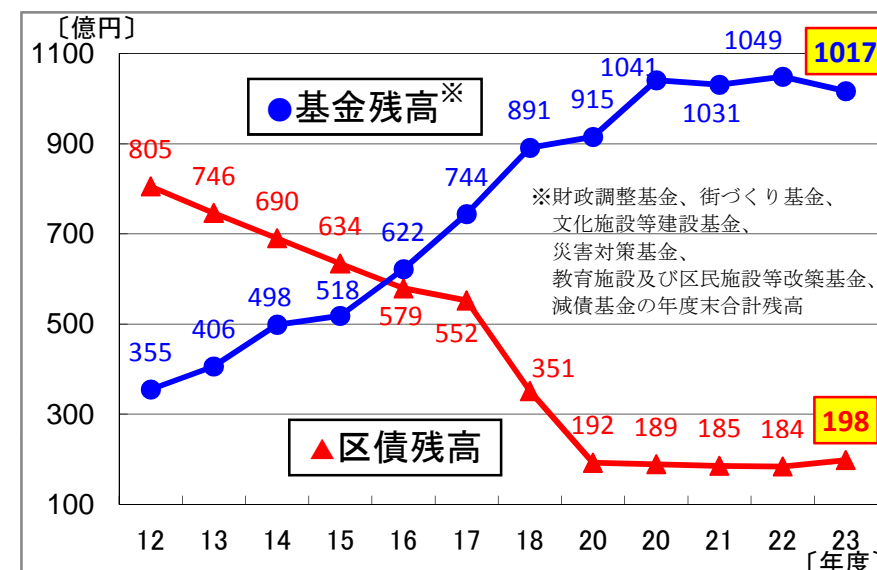
平成23年度決算に基づく健全化判断比

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
江戸川区	—	—	△4.5%	—
早期健全化基準	11.25%	16.25%	25.0%	350.0%

※表中の「-」はマイナス値を表し、22年度決算が黒字であったこと、将来負担すべき額よりも基金(貯金)の方が多く、将来負担比率の該当がなかったことを示しています。

なお、実質公債費比率がマイナスの場合は「△」と表示しています。

※早期健全化基準とは、この数値を超えると財政が危険な状態であることを示す、国が定めた指標で、江戸川区の場合の指標を記載しています。



区債と基金の残高

区債残高は、18・19年度に繰上償還を行ったことにより減少していましたが、23年度末では198億円になりました。

主要6基金残高は、「財政調整基金」などの取崩しにより、前年度より32億円の減少となりました。